

Everyone

誰にでも

秘密

has

はあある

ヒミツ

presented by
DreamForest

Kimetsunoyaiba
unofficial fanbook # 07

不死川実弥

×

不死川玄弥

Secrets.

R18
ADULT ONLY

おれの兄ちゃんは可愛い

俺のいちゃんは可愛い

「ね、今日の事件マジでやばくない？鬼の数学教師スマブラ事件
！！もはやだほん怖い！学校行きたくないよ」

「何言ってるんだ弱味暗が。俺だったら返り討ちにしてやる！」

「バカじゃないの！無理だよ無理無理無理！はーあんな恐ろしい
兄貴で玄弥かわいそう」

「いや、でも兄貴だって」

「あーいいから！ほんと兄貴は優しいとか庇わなくていいから！
はつきり言ってる玄弥！お前洗脳されてるよ！」

「そうじゃなくて」

「人は何を言うかじゃない！行動が全てなんだよおおお！」

「兄貴だってけここう可愛いとこあるぜ」

「ギャー！洗脳！洗脳！洗脳！洗脳！」

俺の兄貴は可愛い。

兄貴は、年齢26歳。身長179センチ。体重75キロ。俺が通
っている、中高一貫キメツ学園高等部にて数学教師として教鞭をと
っている。

元々筋肉が付きやすい体質に加えて、トレーニングを欠かさな
いためパンと張った胸筋はかっちりしたベストの胸骨を押し上げ、発
達した大臀筋はパンツの上からでもキュッと引き締まり上がってい
るのが分かる。細すぎもせずかといってマツチョヨすぎもせず、鍛え
上げられた格闘家のようなその体には顔面に真一文字、額に三筋、
身体中にも無数の傷跡が歪に走る。

そしてこれは俺を含め、うちの家族あるあるのオヤジ譲りの特徴で
もある、キツとつり上がった四白眼の鋭い目元と薄い眉。こっちは
兄貴だけの特徴だけど、色素が薄くシルバーにも見える明るい髪
の毛は、前髪を垂らし、他は少しオールバック気味に後ろに流すのが
兄貴のお気に入りのヘアスタイルだ。

ここまで聞けばわかるだろう、端的に言って「兄貴はとてもイカ

つい。」

世が世なら戦士としてばったばったと敵を薙ぎ倒して歴戦の勇者
として名を馳せたんじゃないだろうか。

そのイカつい兄貴は、自分の見た目を理解している筈なのに何故
と思うが家では「殺」と背中書かれたジャージを好んで着ている。
何を殺りたいんだ？

それを着た兄貴とコンビニに出かけると駐車場でたむろしてはし
やいでいたヤンチャな若者たちは静まりかえるし、店内を歩けば普
段なら肩で風を切るような少し柄の悪いおじさんおにいさんが、目
を合わせないように心なしか背を丸める。その位にはイカつい。

そんな兄貴の、どこが可愛いのかって？

グループチャットを抜けて、スマホの画面を真っ暗にしたタイミ
ングで、耳元に「玄弥ア」と熱い息が吹きかけられる。

「シツツ」

「よそ見してンじゃねえよ」

よそ見って、じゃあどこを見たらいいんだよ。

「だって、炭じろたちがツアツ」

ピリツと痛みが走る程度には強く、乳首をつねりあげられて、言
葉を飲み込んでしまう。

「あつ：は：あ：」

そして悪かつたというように人差し指と親指とですりすりとして優し
く芯をこねられると、じんわりと下半身や脳みそに熱が溜まってい
き、ゆるく握っていたスマホが、ソファの座面に滑り落ちる。

——— 気持ちいい。

くったりと力を抜いて、ソファに座って俺を背後から抱きしめる
兄貴にもたれ掛かると、当の兄貴はちゅ、ちゅ、と湿った唇を首筋
に押しつけながら、そこそこ鍛え上げられた俺の胸筋の下乳を持ち
上げたり寄せてみたり、乳首を弾いたり：まあ、ようするにおっぱ
いをもみしだいでいる。

「ンン！」

兄貴にもちもちと胸筋を揉まれると気持ちよくて、腰から下がむずむずとして息が上がつつてしまふ。

「玄弥」

呼ばれて振り返ると、向かい合つて兄貴を跨ぐような格好に抱き直される。俺ももう高校生だし、この格好は少し恥づかしい。家族みんなが買ひ物に出掛けているのがせめてもの救いだ。

たくしあげたシャツの下で、向かい合つた兄貴が俺の胸筋をきゅつと下から寄せ集めると、いじられて尖りきつた乳首が、心臓の鼓動にあわせてふるふる震えているのがよく見える。この後何が起こるか嫌と言ふほど知っている俺は、条件反射のようにずっしりと腰が重くなり、パンツの中がぬるつと湿るのを感じた。

兄貴は震える俺など構ひなしに「あー」の形に口を開くと、まるでお母さんのおっぱいを吸う赤ちゃんのように。口内に薄紅色の乳首を乳輪ごと迎え入れた。

「……ッ」

唇で食まれながら体温が高い兄貴の舌でちゅるちゅると捏ねられると、待ち望んだ快感にビクンビクンと腰が跳ねる。

「あー……」

気持ちいい。気持ちいいけど、決定打がなくて、もどかしい。今すぐダラダラと我慢汁を垂らしながらスウェットを押し上げる前をこすりあげて、射精したい。

「あ……にき、もう……」

兄貴の髪の毛に指を突っ込んで引き離そうとするが、兄貴は素早く反対側の乳首に吸い付いた。

「まだだ、こつちも吸いてえ」

ちゅつと吸い上げながら、今度は唾液でテラテラとひかるもう片方の乳首を、こりこりと指で擦り上げてくるのでたまらない。目の前がくらくらして涙が出てくる。

「あ……りっやだ……それやだっ」

執拗に責められて、気づくと俺は、乳首をいじられながら、ちん

こを兄貴に擦り付けるようにしてパンツの中に射精していた。やっちまった……。

落ち込む俺を兄貴は風呂場に連れて行き、スウェットを脱がせ、人肌のシャワーをかけてくれる。情けなくて目頭が熱くなってくる。兄貴はただ、母ちゃんの代わりに俺に甘えているだけなのに。俺の身体はいつしか勝手に快感を拾うようになってしまつていた。

いつから始まつたのかははっきりと覚えてはいないけど。少なくとも一年以上前から兄貴はこうして時折俺のおっぱいを吸つていた。一度尋ねて教えてもらった兄貴の話によると、随分前に、兄貴も俺もまだ小さかった頃、忙しい母ちゃんが下の妹におっぱいをあげてるのを羨ましがった兄貴に、それなら俺のおっぱいを吸えばいいよと俺がおっぱいを差し出したらしい。

それがクセになつて、定期的に玄弥のおっぱいを吸わねえと落ちて着かなくなつちまつた、と少し恥づかしそうに寂しそうに兄貴に言われれば、兄貴の事が大好きな俺はもう断れるはずもなく。

二人部屋なのをいいことにほぼ毎晩、それに加えてこうして家族が不在の時にも兄貴に授乳？するのが今となつては慣習化してしまつた。

大家族の長男として学業もバイトも家事も手を抜かず頑張つてきた兄貴が、俺のおっぱいなんかで癒されてくれるのなら喜んでありもしないおっぱいを差し出すけれども、おっぱいを吸われないも最初はくすぐつたい位だったのに、残念なことに射精できる年齢になつた頃から、兄貴に吸いつかれると、その刺激が下半身に直結するようになってしまつた。

おっぱいを吸われて勃起している事にはじめて気づいた時にパニックになつて泣き出した俺を、兄貴は冷静に宥めすかして、その後半年ほどかけて一人で射精できるようになるまで根気よく一人で慰

めるやり方を指導してくれた。

流石大家族の長男。面倒見の鬼。

その後は折を見て必要な程度には自分でトイレで抜いたりしているつもりだったけど、同じ頃社会人になったばかりの兄貴もストレスマックスだったらしく、それまで吸うだけだった授乳行為に揉んだり乳首をいじったりが加わり時間もなんやかんや伸び、最終的に俺は乳首を弄られるだけでイくようになってしまった。

ただの授乳はまだ許容できたけど、これははっきり言って男としてなんだか恥ずかしいし、下着が汚れてしまおうと言うデメリットもある。

「卒業しなきゃなあ……」

「なんだって？」

～段ベッドの下の段。つまり俺の布団の上に寝転がってる俺の胸元で熱心におっぱいを吸っていた兄貴が、俺の吐きを拾って上目遣いで見上げてくる。

……可愛い。あの、強面で屈強な兄貴が、こうして俺に甘えてくれるんだ。可愛く思わないわけがない。正直名残惜しい気持ちはある。そりゃ絶頂する位なんだから……気持ちいいし。

でもいつかは俺も兄貴も独り立ちして、結婚だってするかもしれない。いつまでもこんなことを続けてはられないんだから、止めるなら早いほうがいいだろう。

「あつ……あつあつあつあつ……やあ……やだあ……これ……はずか……し……」

兄貴の膝の上のいつものゴジションで両手で乳首をいじられながら、いつとも違つて全裸で、向かい合った兄貴の腹筋と俺の骨盤の間ではげげばげばいびんクンの透明なスキンを兄貴に被せられた俺のちんこが、無防備にビクンビクンと脈打っている。

「汚したくねえんだろ？ 悪かったなあ今まで気がきかなくてよオ」
「そお……だけ、ど、ち……が……んあつ……」

それだけじゃない、という反論は、またしてもぎりりと乳首をつまみ上げられた事によって言葉にならない。ビリビリと強い快感が脳を痺れさせる。

「あ……ひつ……い……いくつ……いくう……ああつ……」
どぶつとゴムの中に精液が流れ込む。

射精してくつたりと横に倒れ込むと、いつもはそれで終わりになるのに、裸の俺に、兄貴が覆いかぶさるようになるのしかかっていた。

「玄弥あ……お前、俺が教えたこと、ちゃんと守ってるよなあ？」

「……あ……うん……」

「今日は何曜日だあ？」

「き、んよう……」

「じゃあ、今日は『準備』してるよなあ？」

問われて、俺はこくこくと頷いた。

兄貴が教えてくれた事。

オナニーは学生のうちは翌日への影響を考えて毎週金曜と土曜日にすること。まだ幼い弟妹たちに影響が出ないよう夜寝る前にこっそりすること。オナニーするためには、お腹の中はお風呂で綺麗にしておくこと。

頷く俺に、兄貴は満足そうに身を起こすと、いつ用意したのか、ベッドの下に隠していた替のローションをどろりと手のひらに垂らした。

速したばかりのぼんやりとした頭で何で？ とかどうして？ とか考えているうちに、ローションをまわせた兄貴のゴツゴツした指が、無遠慮に後ろの穴につきまてられた。

「……あ……ああつ……う……」

驚くより前に、膨れ上がっていた前立腺をグリグリと刺激され、すぐにも達してしまいそうな強い快感に声を噛み殺してシートを強く握りしめる。

「お……お……、ちゃんとお教えた通りにしてるみてえだな」
「し……してるっ……してるから……」

それ、やめて。イっちゃう。出っちゃう。歯を食いしばって我慢している、ふとずると指が出て行く感覚があって、責め苦が止んだことを知る。

ホッとして硬くつぶっていた臉を開くと、兄貴が。

いつもはきつちりと着込んでいたズボンを脱ぎ捨てた兄貴が、はち切れそうに膨らんだちんこに、くるくるとゴムを被せているところだった。

全く理解が追いつかない俺に、兄貴はふたたびのしかかる。いっになく呼吸は荒く、人でも射殺しそうなキラついた目で。

そのまま腰を低く落とす、唾えていた指を失ってひくつく俺のそこに、熱くて硬い質量を持ったものが押しつけられる。

「可愛くねえにいちちゃん、ごめんなあ？ 玄弥」



女子と数学が苦手
成績は
努力の末の及第点

自慢できることと
いったら

射撃の全国大会で
優勝したことがある…
ってくらい

誰にでも秘密はある



そんな
どこにでもいる
普通の高校生

それが俺



ただいまあー

不死川玄弥だ

げんこ〜

お!!



玄弥

お帰り

母ちゃん

ただいま



ただいま
就也あ

おかえり！



うっかり

ただならぬ関係に
なっちまったってこと

くらいだろっか

うん...



ごめんねエ
ごほん
もうちょっと
かかりそうだから
先にお風呂
入っちゃって
くれる？

はい



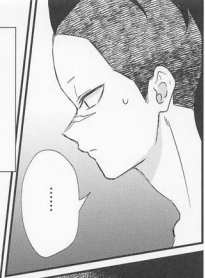
じゃ
就也
またあとで
遊ぼうな

はい！

ただひとつ、
秘密があるとしたら

実の兄と

シッル...



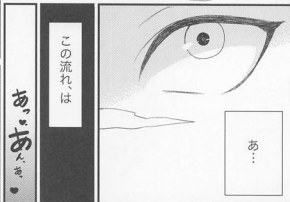
何か……
乳首でつかく
なってきたねえ？

もしかして

兄貴が
舐めたり
吸ったりする
からか……？

昨日も——





薄々

気づいちゃいる
んだけど

あ
あ
あ

ほ
ほ
ほ



はあっ

玄弥

玄弥っ

あ
あ
あ

これ
ちはや
授乳とは
いえねえし

はん心

ああっ...

に
に
に

は
は
は

は
は
は

あ
あ
あ

に
に
に

は
は
は

は
は
は



ただならぬ関係
っていうか

あ
あ
あ

あ
あ
あ

イ
イ
イ

イ
イ
イ

いっちまえば
セックスだよな？







どうしたも
こうしたも…
あの兄貴がいて
それは



どーしたら…
いいのかなって

だから

良くねえ
じゃん

でもさ
どう考えたって

付き合ってる
わけでも
ねえし

男同士だし

兄弟だし…



やばすぎる
だろ!!

弟は
この問題も
解決する
の
俺に
な
れ
な
か
ん

…そっか
言いにくいなら
いいんだけど

相手は
どんな人
なんだ?



やっぱり
言わなきゃ
よかった…

えっと

相手…は…

どうしよう…
引いてるよな!?

年上で

優しくて

頭がよくて

スポーツも得意で

カッコよ…美人で
(ラエイク)

俺には

勿体ない人だよ

すごいな！
とても素敵な人
なんだな

コイツ…！
年上にモテそう
とは思ってたけど…

でもさあ

このままじゃ
外聞悪いんだし
相手のためにも

せめて？

これ以上の
抜け駆けは
許さんっつ

正式に
お付き合い
するまでは
止したほうが
いいんじゃない？

兄貴の…
ため…

わかった…

そう…
だよな

うん…

PROT



び

びびった…

どこぞの
忍者先生
んじゃない
んだから

忍ぶな!!!

薄利多銷
忍び屋

忍び屋
忍び屋

はは
悪いな

起きんの
待ってたからよ

つい

母ちゃんや
他のヤツらなア

今日は
屋前までは
戻らないってよ

お前は…
いつも率先して
買い出しの手伝いに
行っちゃうだろ?

だから

明るい時間に
二人きりなのは

久しぶり
だよなア

玄弥

兄貴……



なんだ？

なんて言ったら
いいんだ？

えっと…



なあ玄弥

兄ちゃんに

お前のこと
隅から隅まで
見せてくれよ

あつ
イヤちよつ…と
待つ…の
あつ…の



あつ

あ、のさ!!



やばい—

流される…



もう…

兄貴とは…

もーいいや
考えんの
めんどくせえ

えっちなこと
しねえから!



……は…



あの!

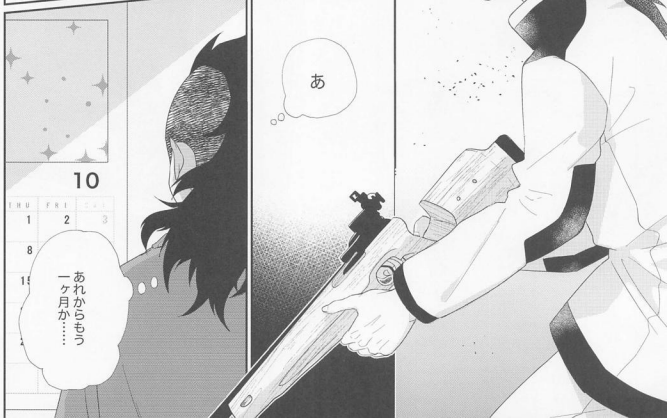
俺!

何て
言ったらいい?

早く……



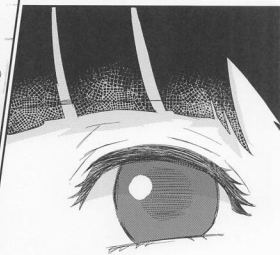
えっと……





大丈夫？

玄弥…







善逸

炭治郎

ムッ



玄弥がね…
具合悪いの
みたいなの
このまま
保健室に
連れていくから

おれも……



わかった！
任せてくれ
気を付けて！

玄弥
別の意味で
死んじやいそう……

真っ赤……



不死川先生に

報せて

保健室

玄弥っ!!!

ガクガク

大丈夫か!?

先生…

げ…

兄貴…

栗花落

ありがとう

はい

もう授業に戻っていいぞ

し、心配させちまって

ごめん

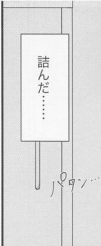
でも寝不足からくるただの貧血だろう

ちょっと休めば大丈夫…

寝不足って…お前!

カナヲ〜!

ヒ…





いいんだ

もう
無理すんな

お前は
優しくて

それに
甘えちまってた



俺の行動が
誤解させちまったんだ



……辛かったり

嫌だったり
した事なんて
ねえよ



え？

何それ

兄貴は
悪くないのに

マズイ……



辛い思いをさせて
悪かったな



兄貴



それに…

……



吸って

い、今

ここ

ぎゅっ♡



はあ!?

お前、聞いてたか

は？



触って
……欲しい



俺もう
我慢できねえ!



だから…
ねえ！
兄貴っ

早く

兄貴の
ちよーだい！



一ヶ月ぶりの
兄ちゃんの
ちんちん…っ

俺
声出さねえし

んっうんっ
大丈夫

…学校だぞ

腹ん中
ぎゅうぎゅうに
なってる

やっぱり
気持ちいい

ッ…
馬鹿!

あっ
きつきたあ

いいからっ
はや…く…

あっ

深ッいい
…あっ

あーっ

ハッハッ
ハッハッ
ハッハッ

ハッハッ
ハッハッ
ハッハッ

ハッハッ
ハッハッ
ハッハッ

ハッハッ







俺は全然
やさしくなんて
ねえ!

こういうの
良くないって…

分かってんのに

身勝手
だけど…

兄貴に
甘えられるのが
気持ちよくて…



だから
やっぱり
やめたくない

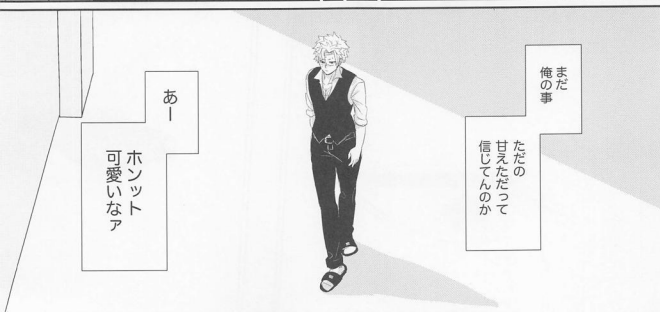
嘘だろ?

ハナツから
欲しかねえ
つてのに

それじゃあ…
授業終わったら
車で送ってつて
やるから

大人しく
寝とけよ

うん



まだ
俺の事

ただの
甘えただって
信じてんのか

あー

ホント
可愛いなア



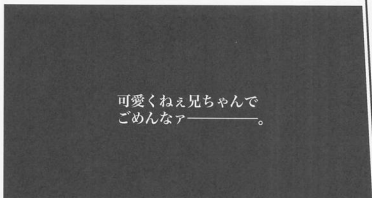
俺の
兄ちゃん
は

優しく
て

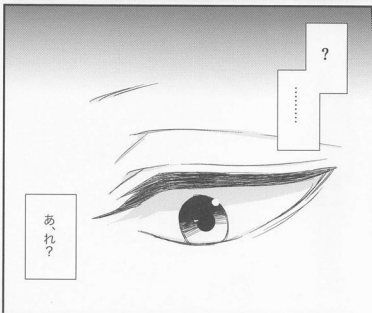


頭がよくて

可愛く
て……



可愛くねえ兄ちゃん
でごめんなア——。



？

あ、れ？

俺の
可愛い
玄弥



誰にでも

秘密はある

可愛いくねえって…
どういう事だ？

?



こんなところまで
お読みいただきありがとうございます。
7冊めのさねげん本です。
色々好きなものはありますが(最近は仮〇ライダーギーツに
ハマっています！)
相変わらず実弥さんと玄弥くんが特別に大好きです。

今回諸事情によりとんでもなく作業時間が少なく
ところどころ非常に荒くなってしまいました。
申し訳ありません。
次は余裕をもって作業したいです。

次は来年の5月か6月かなへと
思っております。

麦茶ックス本にしたいです。
(意味は今のところよく知らない)

ご縁がありましたらまたよろしく願いたします！

Mail: mint_df-kmt@yahoo.co.jp

Twitter: @72n_t

発行日 2022.10.16

印刷所 株式会社栄光様

表紙デザイン meroko様(@merokodesign8)



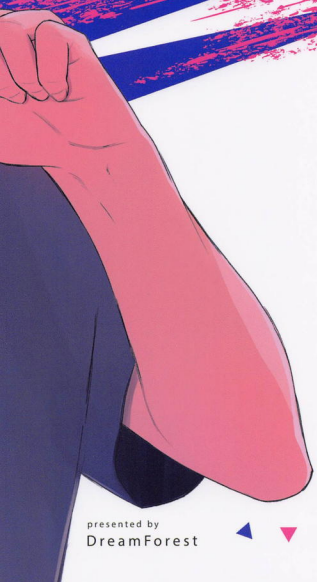
ご意見



ご感想

無断転載や複製、インターネット上へのアップロード、
フリマサイト等への出品はご遠慮ください。

Everyone
has
secrets.



誰にでも
秘密
はあ
る

ADULT ONLY
R18

不死川実弥

×

不死川玄弥

presented by
DreamForest



Kimetsunoyaiba
unofficial fanbook #07